

羽陽学園短期大学附属たかだま幼稚園
令和3年度 自己評価・学校関係者評価

令和4年3月1日

1 建学の精神 「敬・実・和」 まごころをもって 他の人を敬愛し 和をはかる

2 教育目標

「仲良く・正しく・強く・朗らか」な人間性豊かな幼児を育てる

たくましく	心身共に健康で、元気な明るい子ども
かしこく	よく見、よく聞き、よく考える子ども
だれとでもなかよく	みんなとなかよく、のびのびと遊ぶ子ども
まっすぐなところで	きまりを守り、進んでよいことをする子ども

3 本年度重点的に取り組む目標・計画

笑顔いっぱい たかだま幼稚園
～子どもの笑顔を真ん中に～



子どもたちの笑顔いっぱいの幼稚園にするために

- ①保護者のみなさんと力を合わせ ②伸び伸びとした自由保育を中心に
 ③園児一人ひとりみんなを大切にしたい質の高い教育 を実践します。

4 評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	評価	取組状況
1	笑顔を創る保育実践 ◇関連プロジェクト項目： 1・4・5・11	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「遊びからの学び」を大切に保育を実践してきた。のびのびと遊ぶ中で、子どもたちの学びとたくさんの笑顔を見ることができた。 ・取り組みの「過程」を重視した教育活動を実践してきた。子どもたちと共に行事を作り上げていく中で、子どもたち一人一人の伸びや成長を感じることが出来たことは大きな成果であった。 ・「造形遊び」や「運動遊び」、コラボしてのSDGs活動など、短大との連携により、意義ある教育活動を実践することができた。
2	笑顔を真ん中にした 連携と協力 ◇関連プロジェクト項目： 2・3・6・7・8・9・12	A	<ul style="list-style-type: none"> ・制限を設けながらであったが、昨年以上に参観の機会を持ち、保護者の方に子どもたちの姿を見ていただくことができた。但し、全国的な感染状況の悪化のため祖父母参観は中止せざるを得なかった。 ・「造形遊び」や「運動遊び」等の教育活動でのコラボ、行事等における施設の借用等、羽陽短大との連携を十分に図ることができた。 ・コロナ禍のためPTA活動や地域との連携は、例年通りにはいかなかったが、折々にPTA三役や役員の方々に集まって頂き、しっかりと後ろ盾となって頂けたことは心強かった。また、地域との連携では、地域の施設への七夕飾りなど少しずつ活動を再開できた。
3	笑顔を支える環境づくり ◇関連プロジェクト項目：10	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとっての最高の「環境」は園の職員と考え、職員一人一人がよき環境となるよう努力した。 ・施設的に古さが出てきていることは否めないが、以下のように安心安全に園生活を送れる環境作りに努力した。 <ul style="list-style-type: none"> *衛生用品の整備と蛇口のレバー化、職員による毎日の玩具等の消毒等のコロナ禍の中で安心して園生活を送れる環境作り *園庭への県産木材のベンチの増設 *全保育室へのエアコン設置 *夏季の外遊びの安全のための熱中症危険指数計の設置 ・日没後のお迎え時の安全のための駐車場照明の設置

評価 (A：十分に成果あり B：成果あり C：あまり成果なし D：成果なし)

5 総合的な評価結果

評価	理由
A	保護者のみなさんからの評価アンケートでは、たくさんの感謝の言葉や昨年以上に高い数値の評価を頂戴することができた。また、職員の自己評価からは、コロナ禍のために保護者参観の機会等を十分に取れなかったことを悔いながらも、コロナ禍の中で子どもたちのためにしっかりとやり切ったという達成感を例年以上に感じることができた。このことは、4つの視点（①「遊び」からの「学び」、②取組「過程」を通した子どもの「成長」、③温かい保育、④短大との連携による教育活動の充実）を大切にして、重点目標である「笑顔いっぱい たかだま幼稚園」創りに取り組んできたことの成果であり、保護者のみなさんが園の考えを十分理解し協力して下さったことの賜物と考える。コロナ禍2年目の制限ある中での教育活動であったが、子どもたちが笑顔いっぱいに園生活を営み成長することができたものとする。

評価（A：十分に成果あり B：成果あり C：あまり成果なし D：成果なし）

6 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育活動の充実	以下4点を大切にした「笑顔いっぱい たかだま幼稚園」づくりのための教育を継続して実践していく。 ①遊び込むことを通した、好きな「遊び」からの「学び」を大切にした教育 ②取組み「過程」での子どもの「成長（のび）」を大切にする教育 ③子どもたちにとっての「温かい保育」 ④羽陽学園短期大学との連携による「豊かで意義ある体験・活動」（造形遊び・運動遊び・短大生と遊ぼう等の継続実践）
2	保育環境の充実	①職員こそが子どもたちにとって最高の「環境」となるべく、職員一人一人が努力すること。 ②創立50周年を契機とした子どもの笑顔のための園庭への新遊具の設置 ④安心安全な保育環境づくりのための、コロナ対策等の環境整備 ③園と家庭が同じ気持ちで子どもの教育にあたれる環境づくりのために、日頃から家庭との連絡を密にすること

7 学校関係者評価委員の評価

◇評価者 花田嘉雄 評価委員（羽陽学園短期大学准教授）

①評価できる点

- ・昨年度と同様、笑顔いっぱい たかだま幼稚園～子どもの笑顔を真ん中に～という目標を掲げ、自由保育を中心に子ども主体の保育を実践されている点が高く評価できます。コロナ禍にありながら、喜怒哀楽のある伸び伸びとした子ども達の姿が見られるのは素晴らしいと思います。毎日元気な子ども達の声が短大まで聞こえてきます。また、造形教室で関わらせていただいておりますが、前向きに活動に取り組む子どもの姿や積極的に自分の感想を発言する子どもの姿がたくさん見られます。自主性が育っており、質の高い教育をされていることが窺われます。
- ・保護者アンケートに見られるように、各先生方が子どもや保護者との信頼関係をしっかり築いている点が高く評価できると思います。また、保護者アンケートよりも職員アンケートの方が辛めの評価となっており、先生方が責任と問題意識を持って職務にあたっていることが窺われます。

②改善が必要と思われる点

- ・保護者アンケートから、コロナ禍のため連携が取りづらい状況での情報提供の工夫が挙げられると思います。ホームページ上の今月の幼稚園のドキュメンテーションの充実と活用の工夫が一案です。ただし、園の回答にもあるように日々の充実した保育業務の方が優先ですので、負担にならない範囲で進めていただけたら

と思います。

③その他

- ・毎年、実習では大変お世話になり、感謝しております。先生方の優しく丁寧なご指導と素直で朗らかな子ども達のおかげで、充実した実習になっております。また、園庭や本学中庭等で元気に遊んでいる子ども達の様子に、コロナ禍の本学学生も癒されております。

◇評価者 土屋夏美 評価委員 (PTA 会長)

本年度もコロナの影響により年間を通じた行事の計画・実施には本当に苦労されたかと思ひます。園長先生をはじめ先生方の努力のおかげで開催できたのだと思ひます。心から感謝致します。

保護者アンケートでは大変たくさんの感謝の声が寄せられている事から先生方の日々子どもたちとの関わりや保護者との連携がしっかり出来ていたのだと感じました。また期待と要望も多数ありましたがこれからのたかだま幼稚園の発展向上に役立てて頂けたらと思ひます。

*送り迎えなど保護者が来園するご家庭は玄関に行事の写真がたくさん貼ってあるので見る事が出来ますが、そうでないご家庭は来園する機会がほぼなくそういった先生方が作ってくださっている事が分からない方もいらっしゃるかもしれません。見てもらえる機会があったらいいなと思ひました。

今後もコロナ禍での保育となり制限された環境となるかと思ひますが、たくさんの思い出作りと経験ができる事、保護者との交流などの機会が増えることを願ひこれからも笑顔いっぱいのたかだま幼稚園でいてほしいと思ひます。

◇評価者 中村彰宏 評価委員 (PTA 副会長)

初めに、コロナ禍での様々な行事推進にあたり、変化する社会動向をみてご対応いただいたことに感謝しております。保護者にとって、園児を安全且つ楽しそうな幼稚園に送り出せる事は非常に安心でき、心強く思ひました。毎日のバス送迎も、運転手先生と同乗の先生が声掛けしてくれて、丁寧な対応が感じられ、毎日のことだからこそ一番意識に残り、一番大事なものだと思ひます。

評価結果についてですが、例年通りの行事とは行きませんでした。園児の気持ちを優先して園児中心に取り組めるように配慮されていたと思ひます。練習や本番で楽しそうにみんな目を輝かせていました。アンケートにも、保護者・職員ともにその良い回答がたくさん見受けられました。園の方針と、先生方の取り組み・人柄が一致しており、高評価に繋がっていると感じます。来年度以降も今年度の方針を継続していただければいいなと思ひます。

環境づくりに関して、やはり老朽化している施設設備はありますが、それでも地道に設備改善の動きが見られていますので評価したいと思ひます。今後においても、予算都合で園児や職員の環境を悪化・停滞させることだけは無いようお願いいたします。大変な中ですが、計画的に新しい環境整備に引き続きご尽力をお願い致します。又、コロナ禍という事もあり、WEB会議やインターネット配信・掲載など積極的に取り入れてもらいたいなと思ひました。

最後になりますが、園児にとってたかだま幼稚園の先生ひとりひとりが本当に良いお手本となっていると感じます。評価コメントにありましたとおり、”子どもにとっての最高の「環境」は園の職員”でした。

◇評価者 高橋洋光 評価委員 (PTA 副会長)

アンケートのご紹介、ありがとうございました。職員、保護者共に、全体的に肯定的な意見がほとんどであったことに安心しました。

また、多数の評価項目にて職員と保護者の差異がなかったことから、適正に評価されていると判断しています。職員の皆様の努力が高評価に繋がったのではないのでしょうか。私もうれしく思っています。今後ともよろしく願いいたします。

さて、私が感じた感想を以下に記しますので、ご参考にして頂ければ幸甚です。全体的に高評価の中で、職員と保護者の意見に少し差異があるものと、少数意見について着目してみました。

「1.子どもたちは喜んで幼稚園に通っている」と「9.保護者との連絡や意思疎通、保育活動の説明をきめ細かく行っている。」での否定的な意見が2%と同数です。恐らく同一の保護者の方のご意見かと思えます。評価アンケート結果からは詳細は分かりませんが、保護者の方は職員の皆様に、職員の皆様は保護者の方に、少しでも考えが伝わるようなコミュニケーションをとっていただければと思います。

「8.保護者が保育やその他の行事を参観する機会をよく設定している」では、職員の皆様は「もっと設定できた」と感じておられる方が多数占めている中、保護者の皆様は「現状（令和3年度）のままで良い」との意見が多数占めており、評価に差異が見られます。推測ですが、職員の皆様はコロナ前を基準として考えており、保護者の方、特に満3歳、年少、年中のお子さんを抱える方は、コロナ禍での経験を基準としているのではないのでしょうか。この結果が「9.PTA 活動の在り方は適切である」に繋がっていると考えます。職員の皆様は100%高評価であったのに対し、保護者の皆様は「ややあてはまる」が約1/4を占めています。行事回数の減少により、PTA 役員と保護者の顔を合わせる機会が減少してしまったために、PTA 活動がどのように行われているかが理解出来なかったのではないのでしょうか。

「行事回数はこのままでいいが、保護者同士顔を合わせる機会が少なく、PTA 活動があまりかわらない。」と感じていらっしゃるかと推測します。

現在もコロナ禍により、園の活動が制限されてしまうかもしれませんが、健康と安全第一で何卒よろしく願いいたします。